

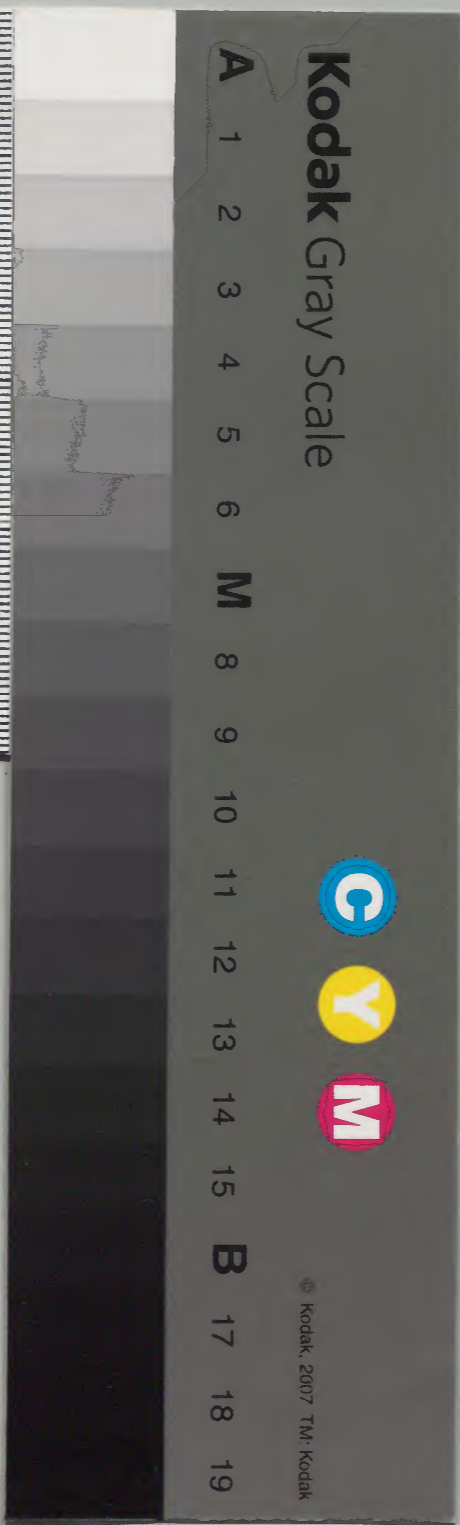
海外異聞

十一

庫文官政太			
		七	和
		八	書
三	九	六	門
三	一	九	二
冊	架	函	號
		類	

庫文閣内			
		七	和
		八	書
八	三	六	類
五	三	二	
函	冊	號	
九			
架			

内閣文庫	
番號	和 7862
冊數	33(12)
函號	185 133



文教
海外異聞卷之拾
目録

三時倉

一 朝鮮人末朝の使節對馬守の事 任付事

一 宗對馬守先指の任付事 任付事

一 書籍の任付事 任付事

一 對馬守の任付事 任付事

一 通事の任付事 任付事

一 朝鮮人の地志の任付事 任付事

一同在國面々申書付く是れ



- 一 神皇正統記卷之三
- 一 禮曹公對馬守上書箱甘書信上使之事
- 一 朝鮮之使使道中漢之志和海道泊泊也
- 一 同使使以下宿藏姓右人致書
- 一 書卷之三
- 一 朝鮮人江大志本頭守治役人道回之事
- 一 朝鮮冊江守為回國共道回之事
- 一 朝鮮之使使上使之事
- 一 使使卷之三 職小禮之事

卷之三

- 一 會意之吹中
- 一 所之勤番道西回之事
- 一 朝鮮人曲馬見物之使之事
- 一 使使沖帆舟上使之事
- 一 沖返箱六下物之使事
- 一 宗對馬守其外洋領物是朝鮮人江守之事
- 一 朝鮮國王之使使歸還箱之物之事
- 一 同禮曹公對馬守中法月代之事

相換と云ふ事日清邊に仕奉る間東來朝鮮人
 兼勝と云ふ用相換と成 沖免井上河内守、大
 任丹と云ふ事、任出の同正日林大學頭 沖前上
 出胡解と事、任出の實永明曆天知東朝と事、
 少し相違と云ふ事、任出の正徳東朝と事、任出の
 任出の任出の由中上と事、沖免の日本國王と事、
 一船返船と事、任出の任出の任出の任出の
 大猷院極け任出の任出の任出の任出の任出の
 任出の 沖出の任出の任出の任出の任出の任出の
 一任出の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 沖免の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 一任出の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 曆天和の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 公儀の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 思任出の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 任出の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 任出の任出の任出の任出の任出の任出の任出の
 一任出の任出の任出の任出の任出の任出の任出の

一 同来七月十日 任出の任出の任出の任出の任出の任出の

一 河野豐後と久世大和と戸田山城と別居大學院父子
之入也 石出河野豐後と中流又

一 康年朝鮮之使使來朝年七月而百助右と沖用六
相勤大學院父子人越相勤 思石河同心也中流又
之由中流の義年若久保長河と久保依後と教
川出河と退也

一 同日十日丹上河内と龜ヶ島對馬と大島等 上流
諸以書片と後と通

朝鮮人來朝年若久保長河と久保依後と教

一 河野豐後と久世大和と戸田山城と別居大學院父子

一 執政之書翰寛永九年迄之第一總連右之執政之

返編年連右之寛永十三年以來之執政迄一通氣

事也及返河内と龜ヶ島對馬と大島等

河野豐後と久世大和と戸田山城と別居大學院父子

一 享保之成康二年四月十日自家對馬と大島等

朝之と執政之書翰迄之右河内と龜ヶ島對馬と大島等

比と河内と龜ヶ島對馬と大島等

一因未八月家對馬島之...

信使之倭國對馬島中誠通...

中誠通之對馬島...

世子之曠官...

平重之二月七日...

一因山本清隆...

其長久又...

同來八月朔...

若此山書...

素急山...

返歸...

自...

朝鮮國...

朝鮮國禮曹參判金興度奉復

日本國對馬太子拾遺平公閣下

星槎帶信嗎諦

啓居...

貴殿下新美

不基要遺信使益修舊好

盛意勤摯殿不如

于佳旣詳飲菲苟目敬統希

照亮不備

戊戌年三月

禮曹參判金興度

右參府是之刑部

文昭院棟

長以後進相親也

後之百之十日

列在象智也

頃之四品也

和采方為

中候之節別

叙後四位下

又養父對馬

小徳川 同日拾二段 同日宗女

道中折之細籠人地乞与 何片集

一守保元年三月廿日細籠人地乞与 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

何片集 何片集 何片集

是故務中

松浦肥前守

通江合割

山崎宗信

通江合割

青山因幡守

相模大坂

香后丹波守

通江合割

加茂和守

通江合割

吉出和守

右同部朝鮮人北地之人

任其公

但少書甘旨通江後

芙蓉之間

同部尾張

尾張後

同部朝鮮人北地之人

引入蜀之間像例

遠江新拓

進後三以原

右部羅人北地之人

宮城

但書并遠江後

朝鮮人北地之人

府之向

如多上總守

於京邦禧能ハ能守ハ地也云々 任甘ハ以夜

本州陸海軍食為内國云々以夜任甘ハ以夜

其類ハ以夜任甘ハ以夜任甘ハ以夜

以夜任甘ハ以夜任甘ハ以夜

同文云云 加夜和夜

同文云云 天田宗也正

能大後地也云云任甘ハ以夜

任甘ハ以夜任甘ハ以夜

同文云云 以平任賢

以夜任甘ハ以夜任甘ハ以夜

任甘ハ以夜任甘ハ以夜

以夜任甘ハ以夜任甘ハ以夜

任甘ハ以夜任甘ハ以夜

以夜任甘ハ以夜任甘ハ以夜

任甘ハ以夜任甘ハ以夜

以夜任甘ハ以夜任甘ハ以夜

任甘ハ以夜任甘ハ以夜

多丹丹羽与

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

第十卷下回

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

一 蒙保四年三月十五日朝鮮人出北乞人出國乞

右同 山城邊城

松平知多

右同 近江守山宿

板倉忠信

右同 池邊仕保不速至勤分乞人

右同 池邊仕保不速至勤分乞人

丹後掃部

右同 池邊仕保不速至勤分乞人

三浦忠厚

右同 池邊仕保不速至勤分乞人

松平知多

右同 池邊仕保不速至勤分乞人

松平知多

右同 池邊仕保不速至勤分乞人

松平知多

右同

松平知多

一 駿河後枝着

上改丹後与

一 同府中城

之花出雲与

一 同府中城

戸田之水

一 同府中城

中後常川

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

一 同府中城

井田之水

一 同府中城

東地若狭与

畧表菲儀並希蕙欽不備

已亥年四月日

禮曹參議尹鳳朝

對列書役當番天龍寺真乘院自心

貴圓 湛長老

東福寺即宗院石霜

曹長老

因勝上使 号我國防

同奉六月廿七日朔群人未細生之別島海邊

上使 号我國防

以月九日号我國防 号我國防 号我國防

收時 号我國防

信使 号我國防

同奉 号我國防

九日 号我國防

廿六日 号我國防

七月 号我國防

月 号我國防

副使

通訓大夫行弘文館典輪知製教兼經筵

待講官春秋館編修官黃埒 字聖不別 号鷺汀

從事官

通訓大夫行弘文館知製教兼經筵行讀

官春秋館記任官李別彦 字季通別 号雲山

四十歲

上之官

同知朴車昌 僉知韓後瑗 僉知金周南

上判事

僉知韓重德 判官李樟 判官鄭昌固

製述官

著作申維翰 字周伯 号青泉 年三十九

書記

進士姜百 字子清号 耕牧 進士成夢良 字汝湖自号 長嘯軒 四十七

進士張應淵 字湖文 年五十一

次上判事

僉正金世鎰 奉事韓質 興

會押物判事 奉事許贊興

副司猛林春瑞 副司猛吳萬昌 奉事

金震焯 會正權興

副司果權道 副司果金光

別提白興銓 副司果金光

上護軍鄭世榮

上護軍香暑

副司吳成世輝

折衛將軍 在必

折衛將軍 尚成續

折衛將軍 洪得閏

都總都事 貝伐臨 万户 儀

副司猛鳳鳴

折衛將軍 韓世允

副使軍官

都總經歷 供德

宣

宣

望十行好子四十人 吹唱六人 使令十八人

吹手十八人 刀尺六人 炮手十八人

燹奉持六人 形名旗奉持六人

節錢奉持八人 旗手八人

下官三百六十人 内騎下船沙五三

調十四人

已上合四百七拾五員

金堂立

金堂立

朝鮮人素胡化卷之貳

朝鮮人

一宗係四乙亥年八月廿七日胡器人為物品川東

海守介海軍中頭等也

海守也月分注未停云海指生

上下

中頭等也

中頭等也

田頭為多

初定年以久保上野与比林大寺以父事
中領守相詣守社奉行酒井御理之更長并修
後守中領守之未指以
天和四年
山利若以後右之面之也
夜之河内与毛之敏是也
一

朝鮮人江天島通心助是日因在

芝出所大木中台通所每芝白中江東指日本

橋下町三月四日大行馬町通旅籠町通油所
一通信所横山町同胆町馬喰町分津系中江所
尾所分分紙揚中江前通了忠秋町約形町田
原所鞍馬守之山原福守系有東本領守上入

旅籠者之使上野面之面之裝束

牧野渡河守
中川内膳正
松平野馬守
橋田俊中守

右ノ保中野

右ノ人大紋

但志之日出食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

日食忽如海ノ對面

以上ノ

五月廿七日

胡群人江戶島島道西國にて

石人組

溝口武治

堀田孫三郎

神保三郎

田園

高坂幸次郎

水定石五力十條
同心五十八名

後施氏

高井隆三郎

倉橋三右衛門

牧野八右衛門

平田三右衛門

石多井隆三郎神尾三右衛門

高井隆三郎大井三右衛門

堀田孫三郎高坂幸次郎

道西

六日

横田徳中

町

大園義前

中

高井隆三郎

稲七郎

五月廿七日

小徳月廿七日

但海軍とてそと町奉行中山御書

有る向く是実岳守の頼守迄の御見廻り

具外町奉行共同心も通し御見廻り町奉行

朝鮮人伝使の上使に御書

一 九月廿六日朝鮮人頼齋東本頼守に為し上使并

内と天田山城と石城塔の源隆守と之を杜若東

衣冠を刀
拾得子

一 源隆守と頼守馬と以平頼馬と先達る石城

一 頼守頼守の書院武蔵迄拾間御見廻り

一 外と五之間と石城塔

一 河内と山城と源隆守と寺行と石城布衣

一 殿是余持石城塔

一 四月廿八日 頼守の舟に御見廻り

一 頼守馬と石城塔御見廻り中川内膳正

一 頼守下野と横田御見廻り

一 頼守上と石城塔人東と石城塔

一 西と石城塔馬と石城塔人

上使と進む言書より對馬と北地を人致於西と
方の上使と後上使とより言の同様の出さるる方の上使後
上使と進む言書より對馬と北地を人致於西と

一 上使紙例東の言の出進 上使三使言の一擧方を
上と進む人三使と後上使と 上使の西の方三使の
東の方物と上と進む上使と上と進む言 上使も
西の方三使と上の方と進むの言と一擧方を
言と上と進む言と進む言と進む言と進む言と

一 宗對馬と北地を人致於西と 上使も進む言と進む言と
西の方上使と進む言と 上使三使二擧を海と進む言
一 上と進む人三使と後上使と 上使の西の方三使と
但 上使三言と上と進む言と上と進む言と進む言と
一 進む上使三使と上と進む言と上と進む言と進む言と
一 上と進む言と進む言と進む言と進む言と進む言と
一 上と進む言と進む言と進む言と進む言と進む言と
一 上と進む言と進む言と進む言と進む言と進む言と

一上使を被布衣急之者刀持と云人死 上使は流の
官屬中より小の級例高き方より高き...

一四國并ぬ人の上使は流より玄雲より上り級例通り
東西に在り

一三使對馬より高き新ありて對馬の上使は上り上意の
中級中級對馬より上使を例と進む時中級新...

一上使遠境遠境を候者候と思ふは候に申使は
成り也

一右に對馬より河内の中級に對馬より中級より上り退...

上り官人上使より上り 上意を新對馬より中級より上り

候之例、進むに候者流より 上意を新對馬より中級より上り

ぬ使對馬より高き新 上意を新對馬より中級より上り對馬

の上使を例と進むに候者 上意を新對馬より中級より上り

國より中級より上り候者 上意を新對馬より中級より上り

右に對馬より中級より上り候者 上意を新對馬より中級より上り

進むに候者 上意を新對馬より中級より上り候者之例

一進むに候者 上意を新對馬より中級より上り候者

上使より一月西より上り候者 上意を新對馬より中級より上り

一 初東西に之並くと退か之使出るは如也是は
 上使に使互に一揮さるる家野馬と山紀乞人との官
 一 此人乞人之構に同去園武是東西と之也一屋中
 一 前出るる場也是家野馬と山紀乞人の西と方上
 一 官と東の方同く
 一 上使も力將其外布衣着る者 上使も海に流る
 一 所か
 一 以年野馬と海中と下登るる 上使も
 一 屋中家野馬かある如くあるは同方より 上使も

一 左邊に渡堂の外左右と是初如是之如く所出
 一 河内と山城と門と門より家野馬
 一 上使能く若布衣乞人徒士に之麻と下是布白張
 一 是石連
 一 但布衣白張者乞人の如く是也是は是は是は
 一 是也家野馬と家野馬日代食を力持
 一 河内と山城と津屋等と 是は是は是は是は是は
 一 但天知と是は是は是は是は是は是は是は是は
 朝霧伝使登 城は親武に決す

津目是進物板治之事

- 一 十月朔日朔日人出禮中其有紀伊中納言殿水戸
- 一 中納言初國將大者其介万石以上曰嫡子其布衣
- 一 以上世役人宅城 出津江左の席と列た
- 一 出仕を向と臨む吏以上は冠を冠する事と可也
- 一 布衣を輩の布衣と云

- 一 朔日人着坊中納言大子下馬前也之送布衣
- 一 對馬島家系地之人物登陸河と中川内膳也
- 一 素行例と云

- 一 朔日人下馬前也上は信濃中川馬籠橋と云
- 一 其外は流ふ所の侍をけ新に御の上は信濃三人は下
- 一 家も物邊を令下馬之使と上下中川の外右邊と云
- 一 して下馬け前より出立する所は進物浦也
- 一 津吉雲前也進物浦と之使下進物の所を云
- 一 二使中川進物浦の時家系馬と牧師後河と中
- 一 川内膳正橋田内中と湯長を島長を右中川内
- 一 日進也就侍階之使下進物浦出向い一攝者也
- 一 進物津吉雲前也

際迄出仕是意方より正使中未候と申出仕時
此御出仕意等より正使中未候と申候加申上意
全御出仕意に別と申出意より多御出仕加申上
副使出仕及御出仕意同前御出仕意御出仕意
東御出仕意より對馬中下所東之方より使中未候
上池子入時より御出仕意御出仕意御出仕意
等川入仕意より對馬より使中未候より御出仕
御出仕意より御出仕意御出仕意御出仕意御出仕
御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意

上より御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
存一同に御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
上御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
但上御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
一御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
大御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意
之御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意御出仕意

為以禮之使出在在亦亦所上公其意同者一因除禮
野馬之松之同也進之卒方入神以後中亦所
山中所也原案上亦亦所西之方下等之也原案を
當以在神の據と後紀作中納之及水子中乃取
西之方亦勝の亦亦出亦亦所上公之也同西之方
為以禮時對馬之是是亦亦同之使はる同の亦
之之使亦と二指方之也之使亦亦の亦亦與原案
際亦亦在

乃之傳使也亦之而之也亦之帝禮之同也連
款之間也進之案の亦亦出た也之同也之同也
法之吏亦亦法亦法眼等人の亦亦之出入の亦亦也
之内も其の修亦上
一 沖倉 然の亦之之四目其目之指也
但亦指其亦亦之自亦亦其法はる而之也冠之り
亦亦
益也 吸物
初然 加
皆上之

使退云云其年社中行人日亦先退其勢馬与
 移其後河与中内日臨心之使回到上之官也
 是中小書院青の如也送云云於此而之使在中
 一五之二稱方之勢馬与年社中行人日亦先退
 送云云後河与内臨心使中与女長等の中と内
 中と送云云其年社中行人日亦先退其勢馬与
 一紀河渡来其後云云一河對岸云云
 一思河出其分出河云云一河内見云云之使退
 一河内後出河云云一河内退致

新之勤番道の兩國之吹事

管 城道の兩國

其力或拾七人
 四心百人

河内を以て其年中二月に番
 中書院番

沖玄園の如

奥川下総与

加番

天田此番

中書院

喉室沖の

柳原此番

沖屋新の

小後地

天田此番

同二番

天田此番

中と沖の

同加番

天田此番

東山興石門
神保至暗

溝口武郎

酒井雅樂次郎浦長門殿上執事
或於之浦長門殿上執事

梯東即於之浦長門殿上執事
松平信隆之長門殿上執事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

朝鮮人來朝記之

朝鮮人曲馬見物之條

一十月廿日於 沖城島出仕之長布衣以上之句

下五侍由中後之其後及之書月河内之山月廿日相

渡水之中之紀之今日月廿日及之渡水之文云

沖書院書院 山北書院 林右學院父子

山菅清平作 西丸山内之指 中奥山北性

忠中極方山内人 新山書院 百人組之記

山持方之記 大政役 沖老之

四月廿三日 中使番 与番組次

伊波地方 西尾新番頭 西尾殿

山平人政 山松子 山守守番

二尾山守番 山納戸次 山膳物奉行

山守通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

四月廿三日 中使番 与番組次

伊波地方 西尾新番頭 西尾殿

山平人政 山松子 山守守番

二尾山守番 山納戸次 山膳物奉行

山守通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

右筆通次 奥山右筆組次

一 組別に冠を日持の御子に...

一 陸奥守松平定宗と松平對馬守松平定綱との...

一 中頭守藤原宗任の書院式産後進十回行の...

一 室町幕府の御用と松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗と藤原宗任との...

一 西月守松平定宗の御用と松平定綱との...

一 長門守松平定綱の御用と松平定宗との...

一 系譜定門の御用と松平定綱との...

一 家對馬守松平對馬守松平定綱の御用と...

一 藤原氏の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 中頭守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

一 右衛門守松平定宗の御用と松平對馬守松平定綱との...

以下同様の持札を... 上使の... 裁...
... 裁...
... 裁...

一 中官下官... 持札... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...

... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...

一 右... 上使... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...
... 裁...

老人以西... 上使... 御... 御... 御...

一 上使... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

より... 御... 御... 御...

一 御... 御... 御... 御...

景野馬守... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御...

一 十月十三日... 御... 御... 御...

白浪五百枚... 御... 御... 御...

時辰... 御... 御... 御...

右國元... 御... 御... 御...

沖日... 御... 御... 御...

老人... 沖馬... 右同人

駿河... 沖目見在... 湯...

白報... 恒使... 港... 徳島...

時... 拾... 長...

同... 首...

右... 沖大和... 長...

白... 拾... 拾村...

時... 拾... 平田...

同... 平田...

同... 拾村...

同... 大浦...

右... 沖...

一 享保四年十月十二日... 湯...

二 使... 湯...

一 十月十六日...

一 同十九日...

一 十月廿日...

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

一 同 丑 年 西 月 朝 日 對 列 茲 乞

大 熙 朝 韓 國 王 之 奉 餉 別 幅 羊 甲 返 稿

黃 照 別 幅 寫

黃 照 別 幅 寫

朝 鮮 國 王 季

文 年 四

燻

奉 書

日 本 國 伏 君

殿 下

十 年 之 間 聘 閒 瀾 馬 匹 開 承 賜 狀 師

殿 下 新 策

金 結 撫 寧 海 宇 某 百 隣 謙 昌 勝 欣 從

一、同、受、導、故、常、持、遣、使、份、致、慶、修、睦、禮、則、
一、頌、下、然、柔、兩、國、交、敬、寧、有、既、平、仍、將、辱、儀、
一、聊、表、遠、忱、惟、冀、益、恢、前、烈、永、綏、洪、福、
日本函備

韓 王 李 焯
朝 鮮 國 王 李 焯

己亥年四月日

別幅

大 繡 匹 拾 匹

- 大段子 拾匹
- 黃照布 伍拾匹
- 黑麻布 三拾匹
- 白苧布 三拾匹
- 白綿紬 六拾匹
- 虎皮 拾五丈
- 豹皮 二拾丈
- 彩花席 二拾張
- 青茶皮 三拾丈

魚茶皮 二百張
 各色筆 兩國交敬 五拾柄
 油煙墨 五拾笏
 黃不膠 百斤
 精製磁 拾
 色茶紙 三拾卷
 駿馬鞍具 三
 鷹熟子 拾
 大頭參 五拾斤

大際計

己亥年四月朔

朝鮮國王李

焯

日本國

吉宗

敬覆

朝鮮國

殿下

合冥使遠來訪問于寧憑送
 興起往勝萬福同也古今應休祥斯花治

賚故遵舊制以珍斯度幣物多儀那堪報
合寶由西國永好之誼而金

陳謝詞識

禮意滿深聊贈謝品間於信使設之所在
彼此皆然不備

○享保四年己亥月日拾卷

日本國源

吉宗

人別幅

大摺畫屏風

二拾雙

貴鍮金案厨書好差使二奉張

鍮金案貝 二拾副

汗茅綾 一百端

紺紬 二、百端

整

享保四年己亥月日

意

日本國

吉宗

朝鮮國禮曹參判金 奉書

朝鮮國禮曹參判金

演

奉書

日本國執政姓 公 閣下

秋聞

貴汰君嗣百

大金緒五

前列我

主殿下思續舊好差使价奉幣馳賀所以
益篤誠信克修隣睦之誼也惟冀輔弼

新政永扶

洪祚不曠土宜

莞領是幸統布

崇克不備

己亥年

朝鮮國禮曹參判金

演

侍候因別幅

虎皮 二張

豹皮 二張

段子 三匹

燕田照布 拾匹

灌清皮 三張

油紙 伍部

主魚皮 拾張

鷹爪 一連

計

時已後年四月

朝鮮國禮曹參判金

○京

朝鮮國禮曹參判金

日本國京尹源公

主領嚮聞

貴大君克紹

演

二張

二張

三匹

拾匹

三張

伍部

拾張

一連

演

演

演 奉書

閣下

貴大前烈邦內寧謐肆惟我

主殿深期續舊好而爰使价奉幣馳買此

誠修睦敦信之誼也惟冀奉暢

新比永扶

洪祿不興中宜以全

崇克不備

陸戰已亥年四月日

朝鮮國禮曹參判金

演

別幅

虎皮

豹皮

日角照布

段子

黃毛筆

真墨

油紙

鷹子

二張

二張

五匹

二匹

二拾柄

拾笏

五部

一連

宣計烈邦內寧謐肆惟敷

王也庚午四月日而爰此將奉幣馳貢此

朝鮮國禮曹參判金惟世

新黃永華 日中分て返綴之寫

日本國執政 姓 名 敬答

朝鮮國禮曹參判金公閣下

遠辱

芹箋捧誦敬

貴國聞我

大君婁同鴻基

三使告賀爰贈珍具隣交之際

禮敬益厚吾亦蒙

嘉惠而荷

盛奉喜慰無盡不知所謝

乃將薄品略表微意統觀

鑒諒不備

享保四年己亥月日

日本國執政

姓

名

別幅

白銀

綿

際

享保四年己亥月日

日本國執政

姓

名

日本國京尹源

忠周

敬答

朝鮮國禮曹參判金

送獲翰篇監誦津

閣下

貴國聞我

大君丕承祖業撫育百姓

三使慶祝率由前規
芳隣之德永
世之譽也

吾亦
惠賜為好感佩
有余菲儀報之以表
敬意

厚冀
蓋存不備

享保四年己亥四月日

忠周

日本國京尹源

別幅道

白銀

一百枚

綿

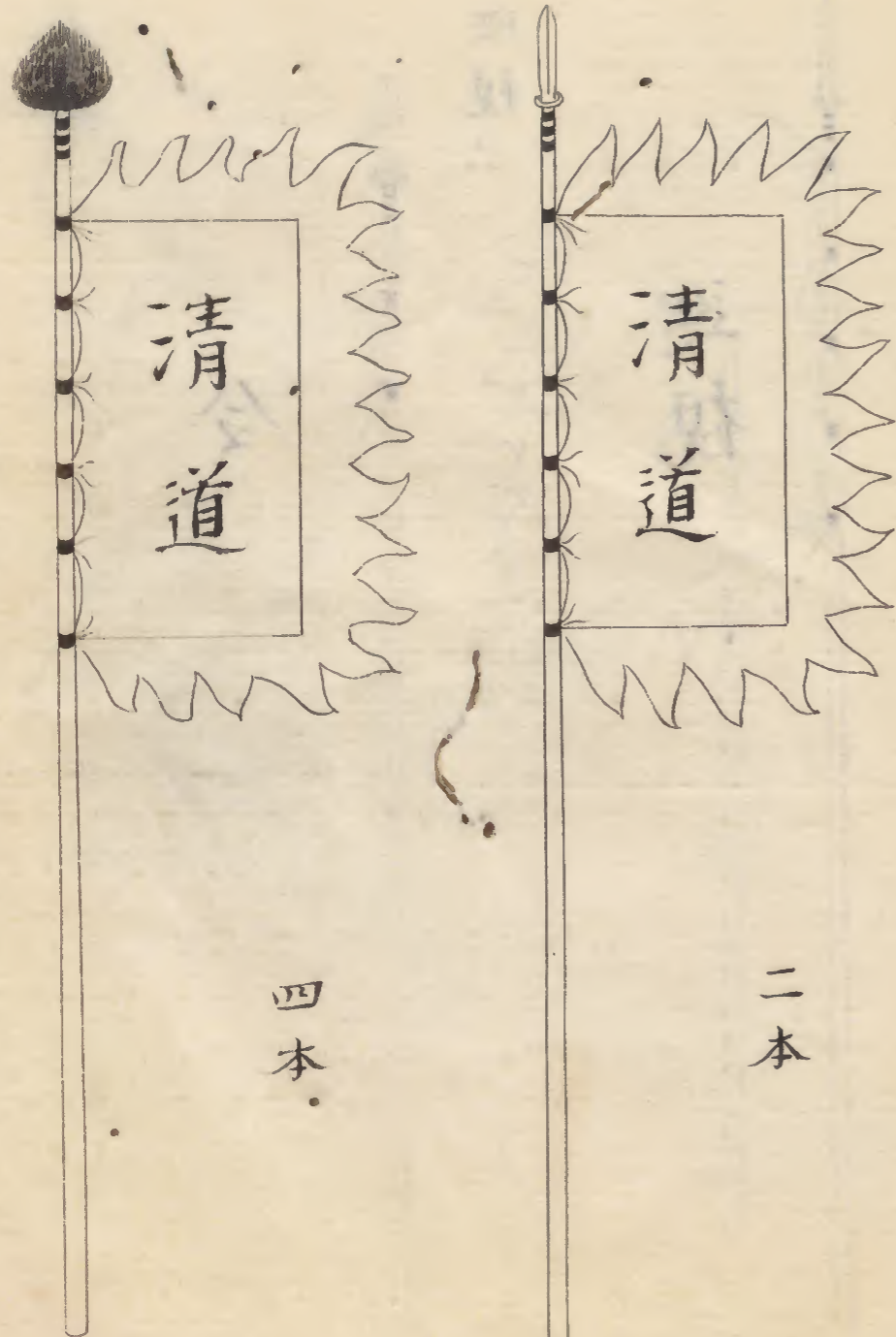
一百把

際

享保四年己亥月日

忠周

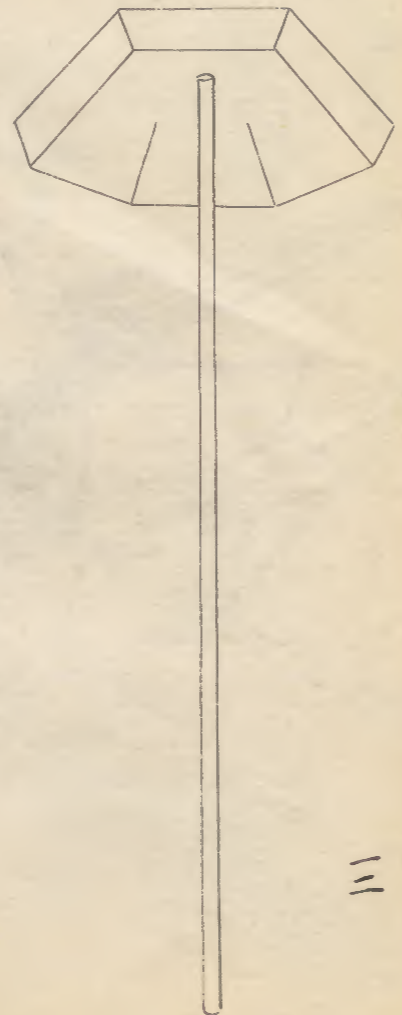
日本國京尹源



四本

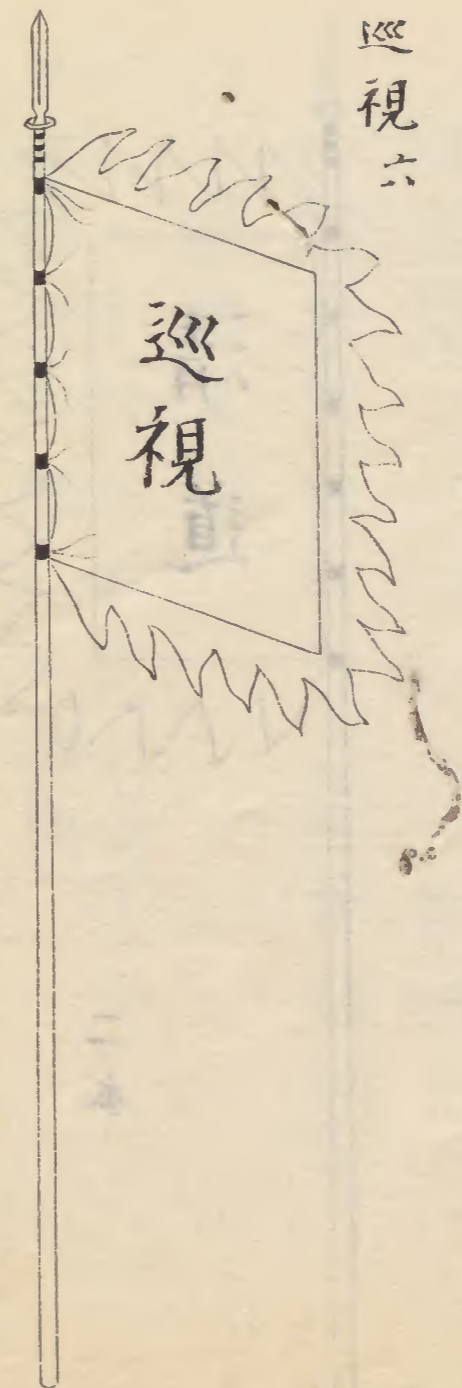
二本

日本國三使齋院奉由
 忠周 芳隣之德永
 京都味辛巳亥月日
 忠周 芳隣之德永
 自取厚賞
 一、百廿
 一、百廿
 日本國京州
 忠周 芳隣之德永
 忠周 芳隣之德永

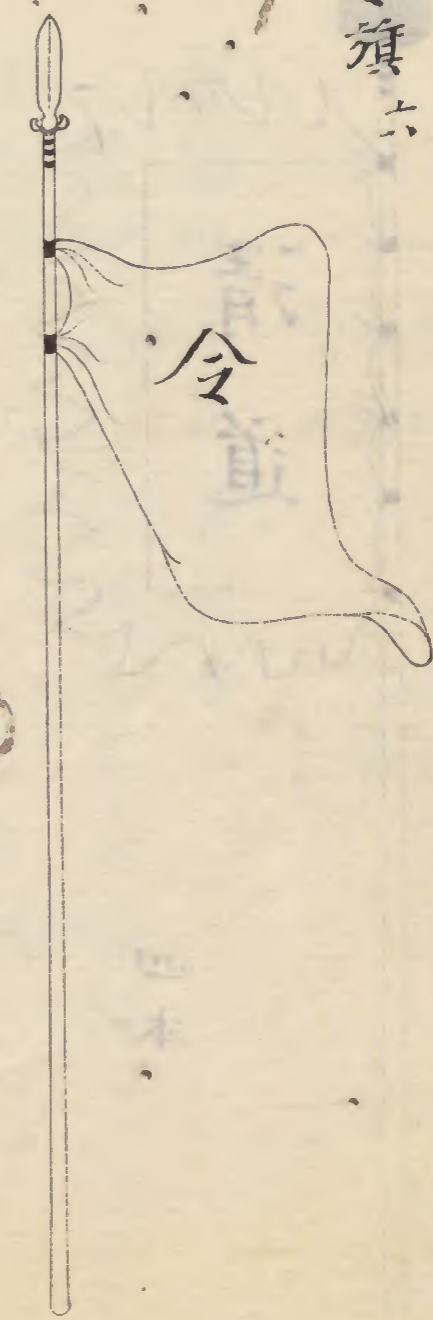


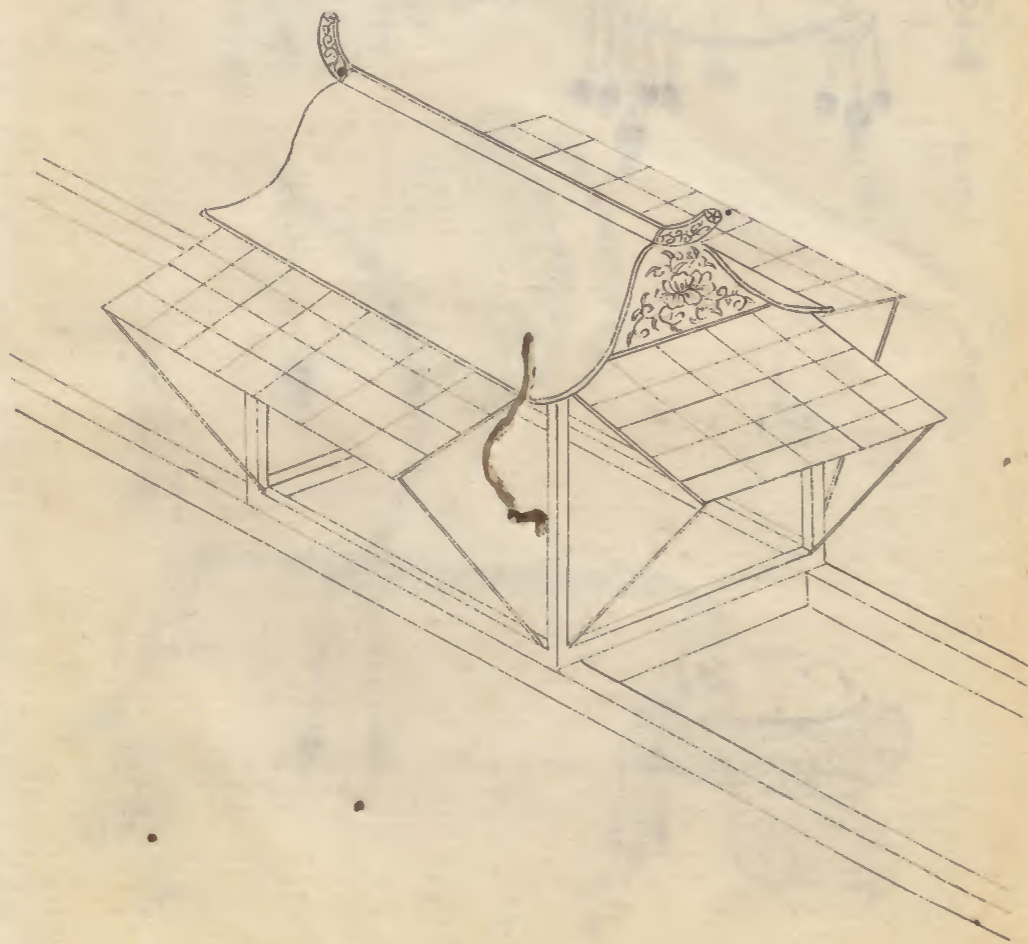
三

巡視六

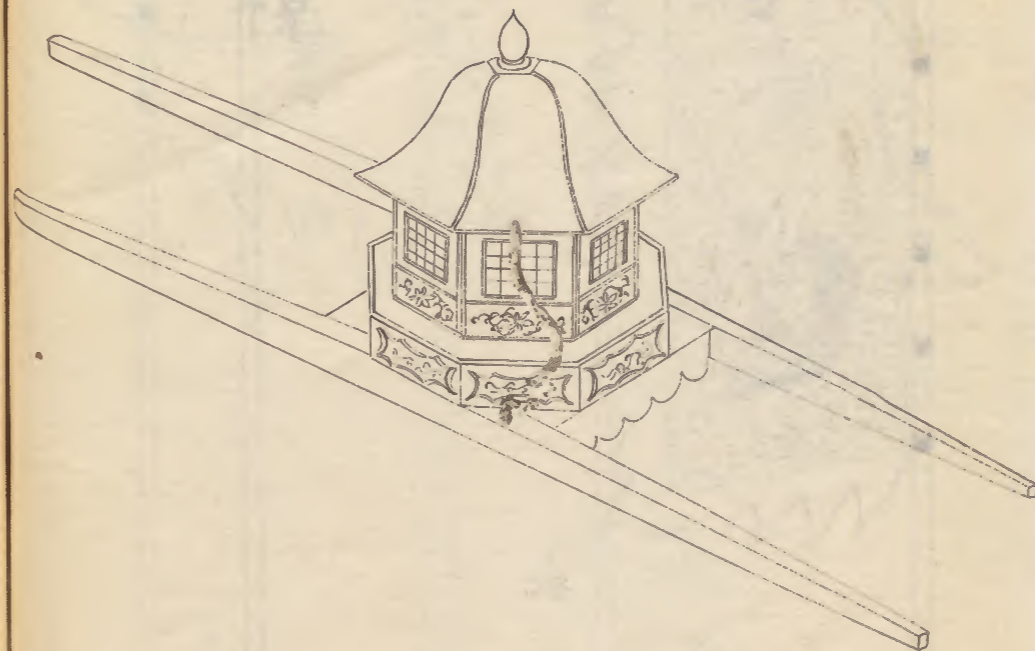


令旗六





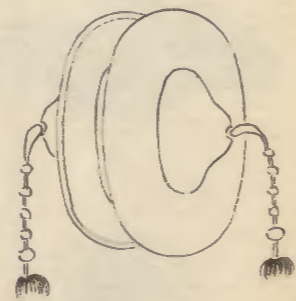
書簡轎



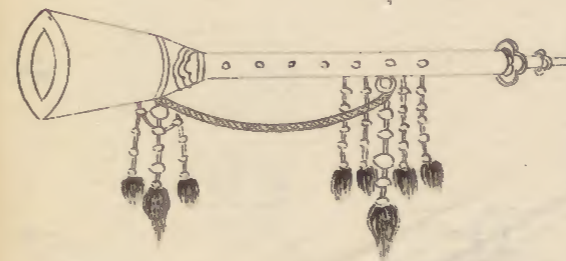
龍笛



ハチ
三



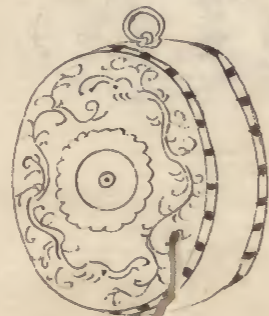
大平簫



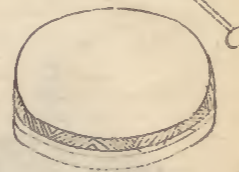
ナアバア
六



ミナリシ
十

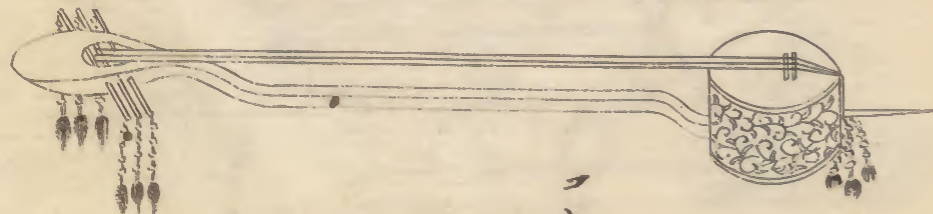
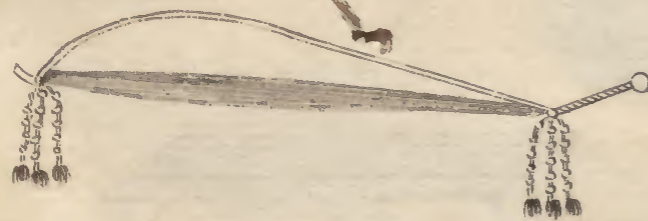


トラ
三

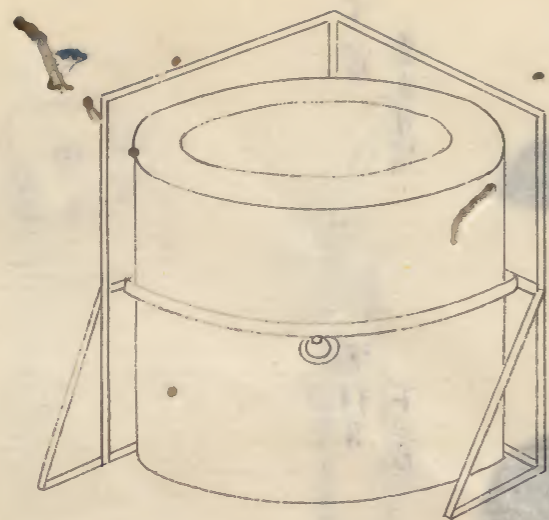


フシ
コ

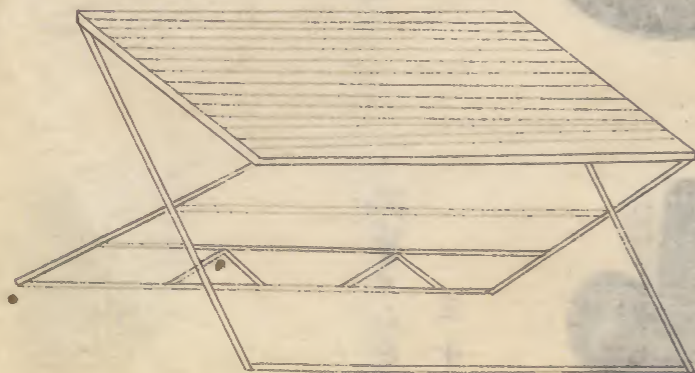
六



コ
キ
ウ
二



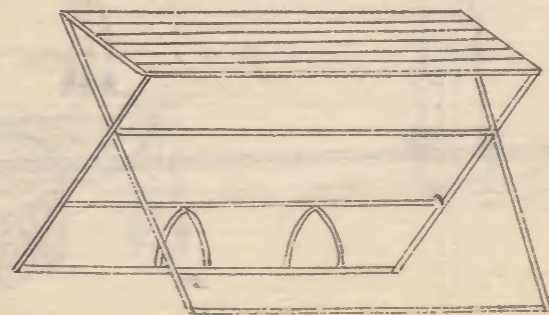
同



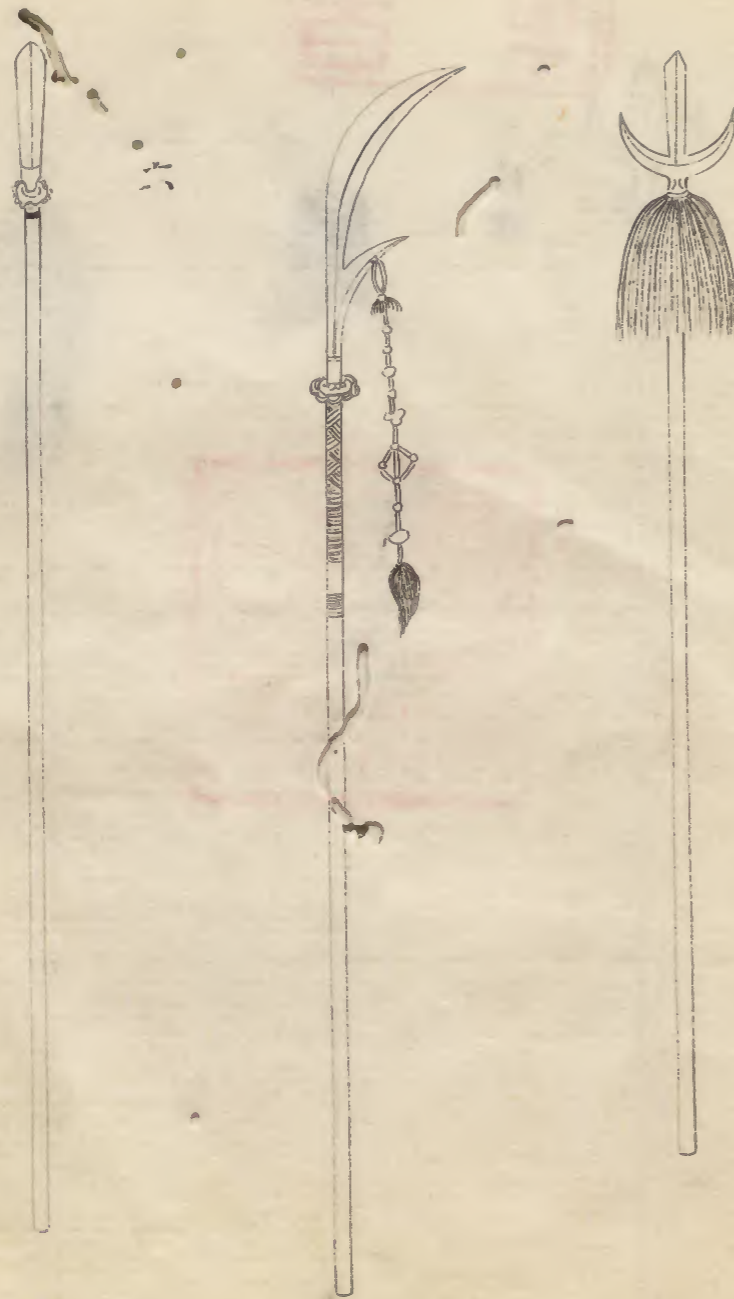
同



ツ
ハ
ミ



サ
キ
サ
ニ



トウニ



下官
赤毛付笠



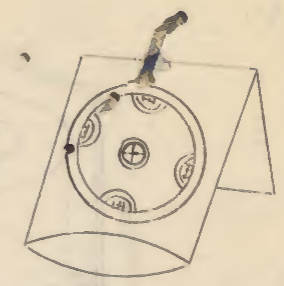
下官
鴻羽付



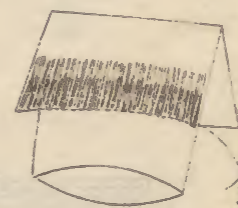
下官
七文字笠
四十



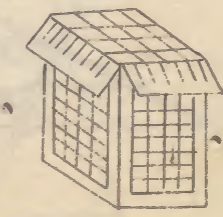
下官
孔雀サシ笠
三十

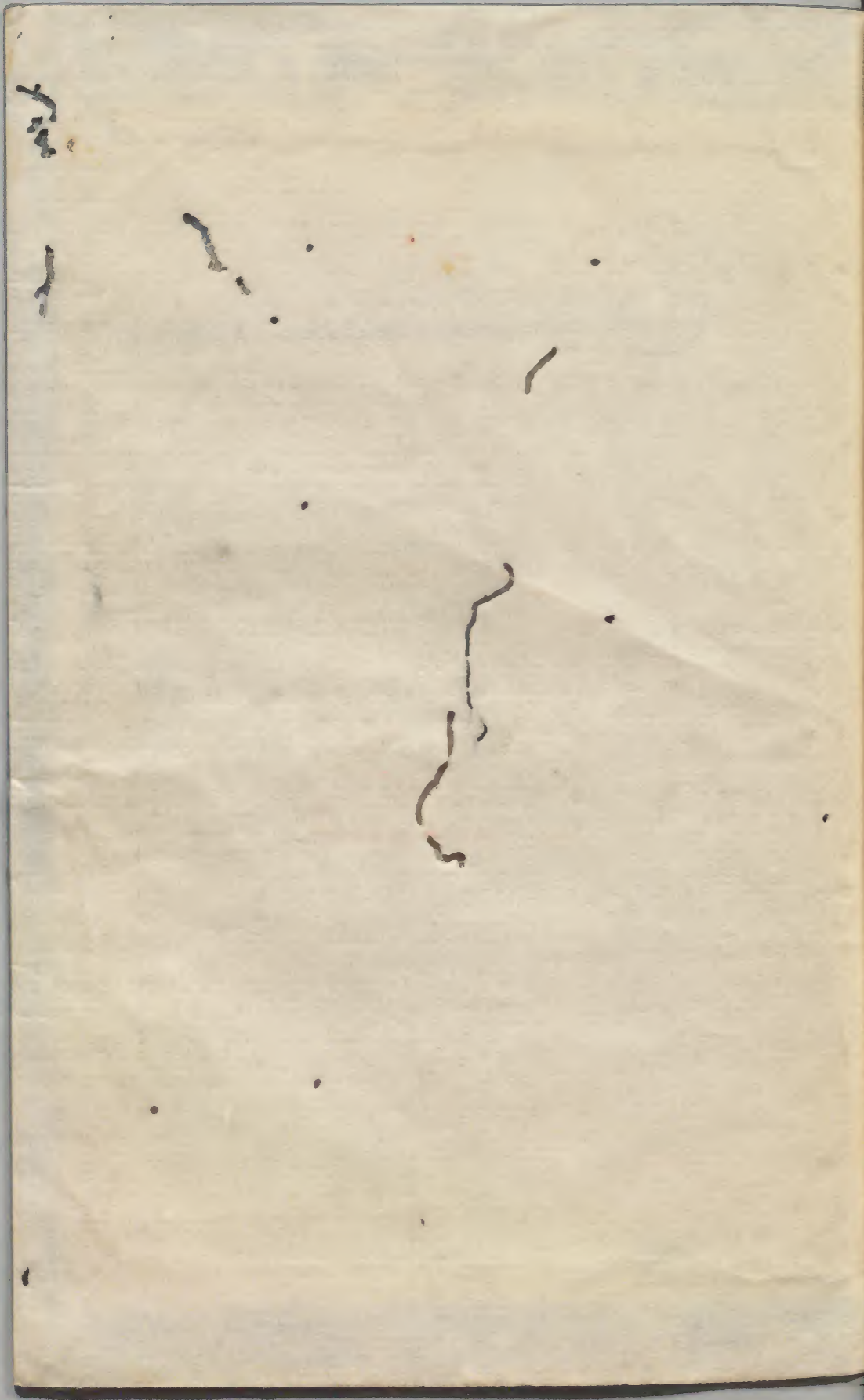


アサトウ



金スシ





圖書
大庫



三
枝
鎗



二



二

圖書
大庫

